

顔面症状とカポジ水痘様発疹症を経て 10 年間治療を継続した成人アトピーの経過 (48 歳 成人)

症例 ID：001-40-MY | 記録日：2015 年 5 月 31 日

1. 診断・治療前経過

22 歳頃から肘内側と首に症状が出て、24 歳頃から悪化しました。目周囲が赤く腫れ、皮膚科でステロイド外用薬を処方されました。その後、首からデコルテに痛みを伴う発疹が広がり、カポジ水痘様発疹症と診断されました。別の時期にステロイド注射後のアナフィラキシーショックも経験しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	皮膚症状にステロイド外用薬を断続的に使用し、蕁麻疹時にステロイド注射を受けました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	成人期に断続的に使用しました。
中止時期	2005 年 3 月の治療開始前です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
22～24 歳頃	発症・悪化	肘内側、首、目周囲に症状が広がりました。
その後	感染症	首からデコルテに痛みを伴う発疹が広がり、カポジ水痘様発疹症と診断されました。
別の時期	注射後反応	ステロイド注射後にアナフィラキシーショックを起こしました。
2005 年 3 月 30 日	治療開始	総 IgE 1241 で治療を開始しました。
治療約 3 か月	初期改善	顔面症状を含む皮膚状態が大きく改善しました。
2007～2008 年頃	症状の移動	症状部位が上半身から下半身、関節の内側から外側へ変化しました。
2009～2012 年	長期経過	両腕・両脚の痛み、浮腫、発疹、ヘルペス症状を繰り返し、総 IgE は上昇しました。
2015 年 2 月	経過中	総 IgE は 8425 まで低下し、ピークを越えたと考えられる状態でした。

4. ピーク時期

ピークは、カポジ水痘様発疹症で首からデコルテに痛みを伴う発疹が広がった時期、および 2012 年に総 IgE が 24100 となり全身症状が続いた時期です。

5. 困りごと

- 顔面症状と首の色素沈着により、外出時にサングラスやスカーフが必要でした。
- 両腕・両脚の浮腫、痛み、発疹により、移動や座位が負担となりました。
- 10 年間にわたり症状部位と検査値が変動し、継続的な治療と自己管理が必要でした。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総 IgE
2005 年 3 月 30 日	1241
2005 年 5 月 31 日	815
2005 年 9 月 12 日	483

時期	総 IgE
2006 年 5 月 19 日	437
2006 年 12 月 12 日	1156
2007 年 4 月 24 日	1102
2007 年 9 月 28 日	1343
2008 年 8 月 20 日	1163
2009 年 9 月 18 日	2477
2010 年 8 月 11 日	5840
2011 年 9 月 27 日	10920
2012 年 10 月 5 日	24100
2015 年 2 月 3 日	8425

7. 経過のまとめ

治療開始後 3 か月で顔面症状は大きく改善しましたが、その後も症状部位が上半身から下半身へ移り、ヘルペス症状や浮腫を伴う長期の波が続きました。

2015 年 2 月時点では総 IgE が 8425 まで低下していました。首の後遺症、両腕・両脚を中心とするかゆみと不快感は残っていましたが、通院を経て日常の負担が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。